

中学校

平成 9 年 度

教育研究員研究報告書

美 術

東京都教育委員会

平成9年度

教育研究委員 (美術)

区市町村名	学 校 名	氏 名
新宿区	牛込第三中学校	上野目 浩 一
墨田区	鐘淵中学校	峰 村 勝
江東区	亀戸中学校	長 尾 菊 絵
杉並区	向陽中学校	中 島 隆 一
練馬区	北町中学校	大 出 和 広
足立区	栗島中学校	◎ 川 村 清 史
葛飾区	新宿中学校	関 根 好 高
府中市	府中第一中学校	土 田 貢 司
青梅市	霞台中学校	○ 高 島 昇
東村山市	第六中学校	相 部 公 太 郎

◎世話人 ○副世話人

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 杉 本 昌 裕

研究主題

「創造力をはぐくむ指導と評価の工夫」

I 主題設定の理由	1
II 創造力の定義	1
III 研究の構造図	2
IV 研究実践例	3
1 基礎・基本に視点をおいて	3

題 材 名

○「デッサンて何だろう」	3
○「写真を使ってものの見方を深める」	5
○「レリーフで考えよう」	6
○「触覚を生かした器づくり」	7
○「折り鶴を描く」	8

2 発想を豊かにする環境・雰囲気づくりに視点をおいて	9
----------------------------	---

題 材 名

○「雰囲気イキいき共同制作」～みんなで一つのものをつくる～	12
○「ポエミーアート」～詩のイメージを絵で表す～	14
○「コンピューターで表す詩の世界」	16

3 選択幅の拡大に視点をおいて	17
-----------------	----

題 材 名

○「私の修学旅行日記」～“想い”を自分なりに表現する～	18
○「好きな曲をコラージュで表現しよう」	22
○「思いのままにマイ・オブジェ」	23

V 研究のまとめ	24
----------	----

I 主題設定の理由

美術の学習は、表現や鑑賞の活動を通して、豊かな人間性や情操をはぐくむことに深くかかわる教科である。生徒は、活動に取り組む中で、自分の思いや考え、感じたことを表現する。ところが、日常の表現や鑑賞活動においては、必ずしも生徒が主体性や独自性を十分に発揮できない状況がある。急速に変化する社会を生きるには、生徒一人一人がもっている能力を引き出し、自分の新しい可能性に挑戦するような態度を育成する必要がある。とりわけ、自我が形成されはじめる中学生の時期に、生徒が、意欲的に活動に取り組み、自分が考えたり感じたことを、自信を持って、自分らしく表現する力を育成することが大切である。美術において、このような力をはぐくむことが、創造力の育成につながると考えた。

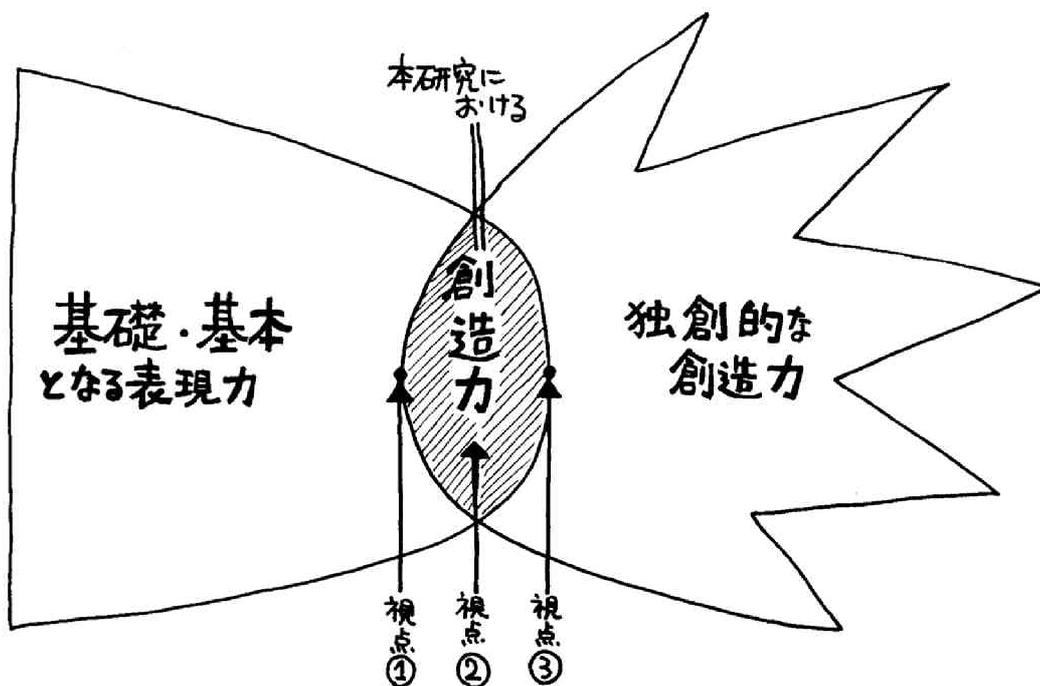
そこで、生きる力をはぐくむために、美術の学習においては、創造力をはぐくむ指導と評価の工夫を図ることが重要であると考え、主題設定の理由とした。

II 創造力の定義

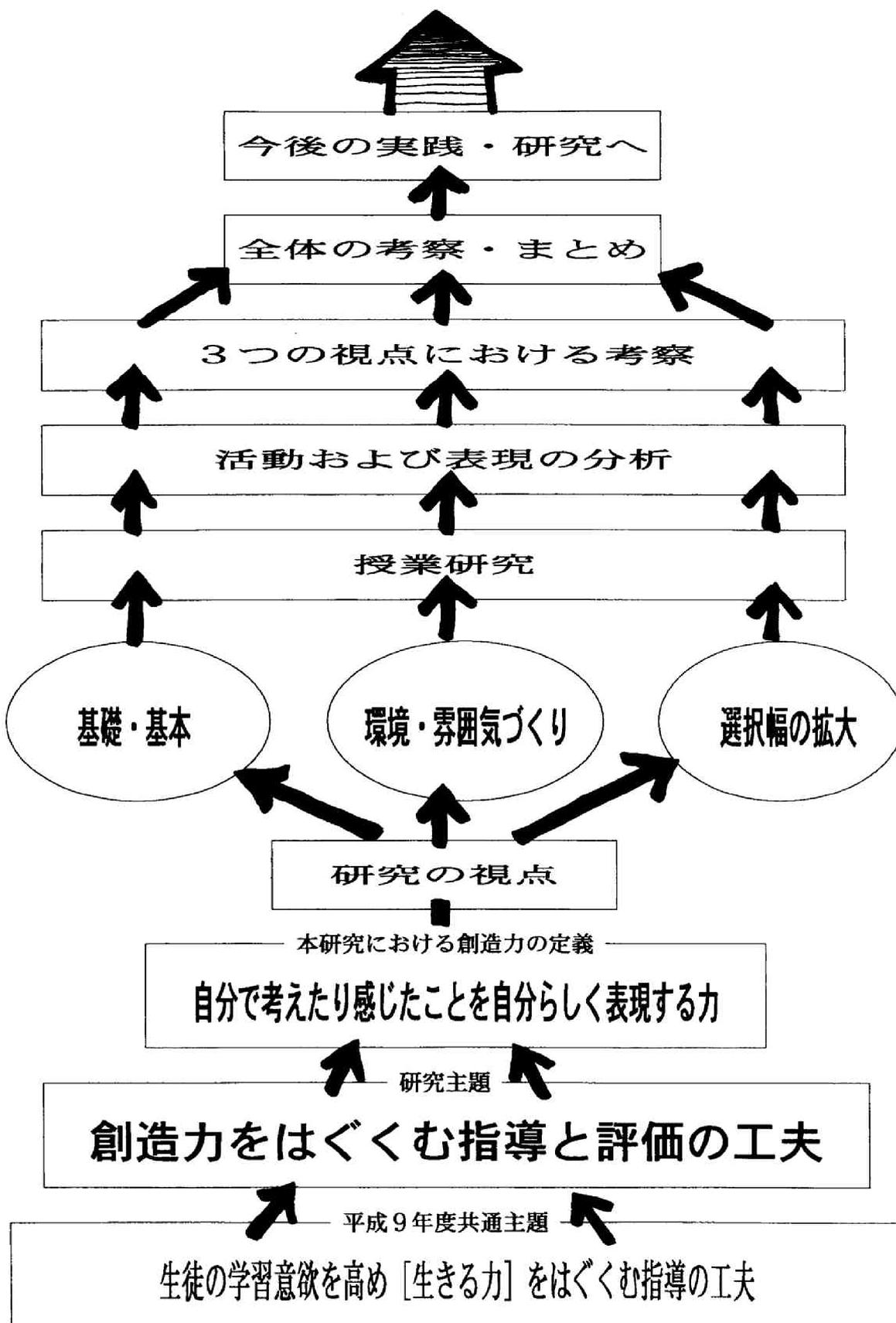
本研究における創造力とは、中学校美術において、「自分で考えたり感じたことを自分らしく表現する力」とした。

そして、創造力をはぐくむために、次の3つの視点を設定して、研究を進めた。

- ① 基礎・基本となる表現方法やものの見方、感じ方を学ぶことによって創造力をはぐくむことができる。
- ② 生徒の発想を豊かにする環境・雰囲気づくりを工夫することによって創造力をはぐくむことができる。
- ③ 主題や表現方法の選択の幅を広げることによって創造力をはぐくむことができる。



Ⅲ 研究の構造図



IV 研究実践例

1 基礎・基本に視点をおいて

(1) 研究のねらい

生徒の創造力は、造形活動への意欲的な取り組みによってはぐくまれる。そのためには、生徒が自信をもって造形活動に取り組めるような指導が必要である。自分の思いを的確に表現する基礎的な技術を身に付けることによって、表現活動に興味・関心が高まり、意欲的な態度で取り組めると考えた。

本研究では、表現の上での基礎・基本的な技術として、「見る技術」と「表す技術」を重視し、基礎・基本的な技術を習得した生徒が、自分にとって新たな表現を発見していくことをねらいとした。

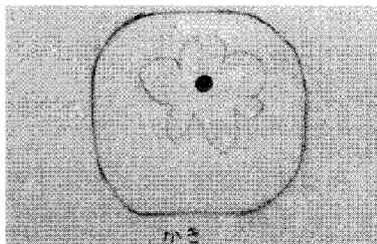
(2) 授業研究

デッサンて何だろう

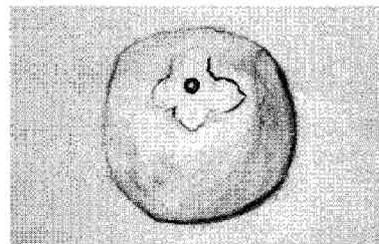
1 題材設定の理由

果実・野菜を観察し、自由に鉛筆で描く。その後、基本的なものの見方や鉛筆の使い方などの技術指導を行い、再度描いてそれぞれの作品の違いを比較・検討させ、ものの見方・表し方を習得させることをねらいとした。また、各生徒の作品を全員で鑑賞し、それぞれの見方・表し方のよさを実感させ、今後の表現活動に生かせるように考えた。

<作品1>

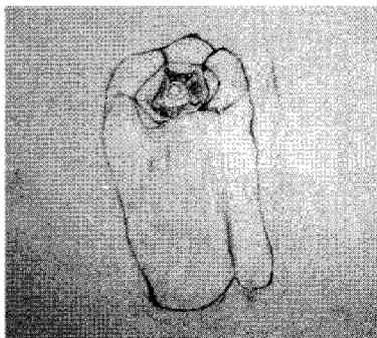


指導前

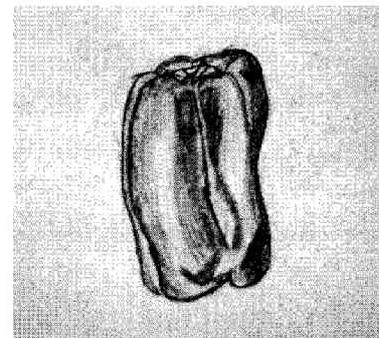


指導後

<作品2>

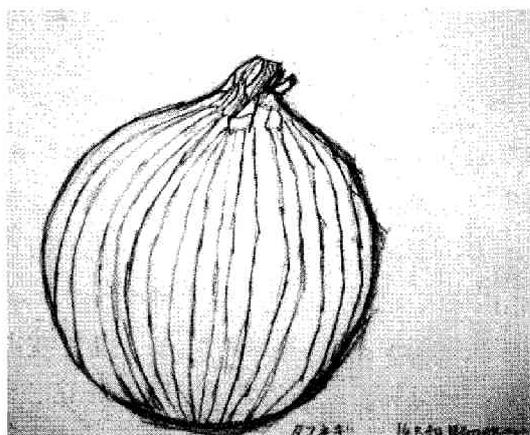


指導前

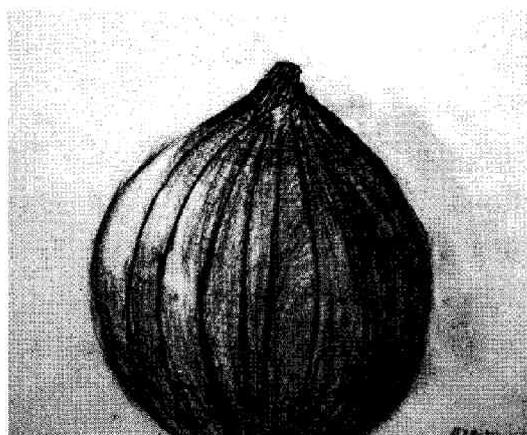


指導後

<作品 3>



指導前



指導後

写真を使ってものの見方を深める

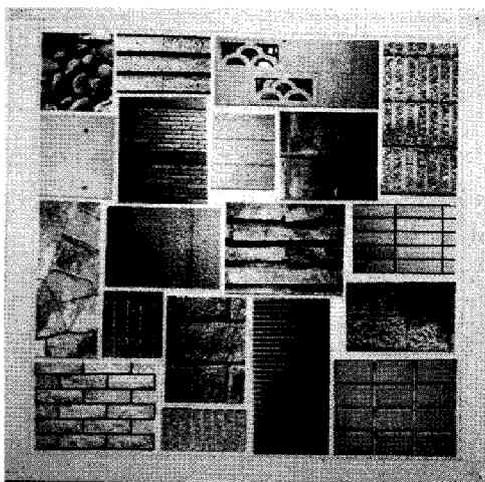
1 題材設定の理由

写真の魅力は、対象をリアルに写しとめて、情報やイメージを分かりやすく伝えられるということである。絵や彫刻という直接的な造形表現が苦手であっても、カメラを媒体として表現される写真は、何に興味をもったかが明確であれば、誰にでも気軽に楽しみながら表現活動を行うことができる。私たちは、この写真の特性を生かし、基本的なものの見方をはぐくむ一つの方法として、この題材を設定した。

2 学習の展開

指導の流れ	主な学習の活動	指導上の留意点
導入 (30分)	①写真のすぐれた再現性や造形表現としての可能性を理解し、自分の作品のイメージを広げ、テーマを決める。	◎望遠・接写レンズを使うと身近にあるものが、全く違う見え方になることに気付かせる。
展開 <撮影> (70分)	②屋外に出て、テーマに合ったモチーフを探し、撮影する。	◎自分が何故、そのモチーフを選んだか明確にさせる。
展開 <構成> (100分)	③現像した写真の形や色を比較し、必要な部分を適切な大きさ（四角形を基準にする）に切る。 ④テーマがより明確になるように画面構成を工夫しながら、両面テープを使い写真をいため紙に貼り合わせる。	◎モチーフの形や色の美しい組み合わせ方を考えさせて、写真を切り取らせる。 ◎写真の大きさなどを再確認させながら丁寧に貼らせる。
まとめ (50分)	⑤完成した作品をお互いに発表し合いながら、それぞれのものの見方の違いや画面構成の工夫を見て鑑賞し合う。	◎お互いのものの見方の違いやモチーフの選び方の工夫に気付かせるように心掛ける。

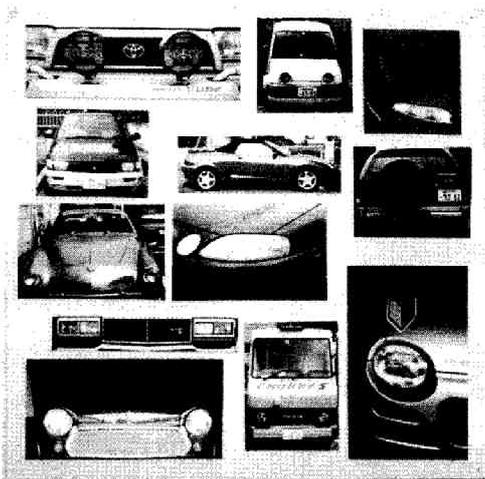
3 作品例



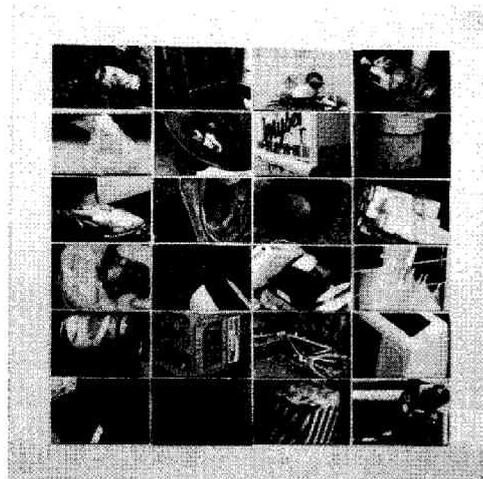
(壁)



(赤色)



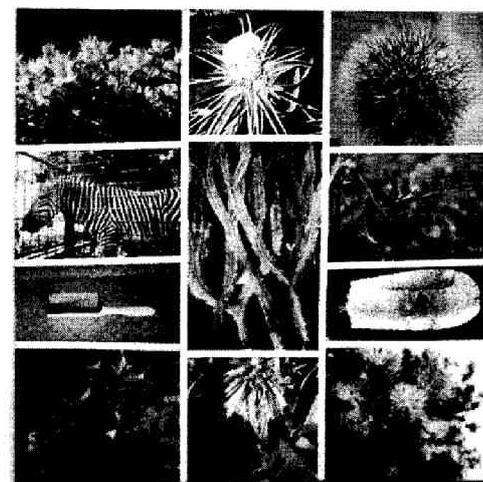
(車)



(リサイクルできそうな・できそうだったゴミたち)



(水)

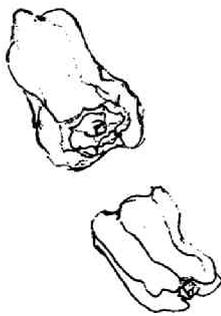


(とげとげなもの)

粘土によるレリーフの制作

1 題材設定の理由

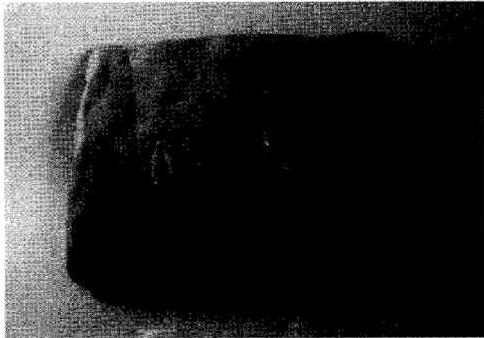
野菜からの発展教材として、粘土によるレリーフを教材として取り入れた。



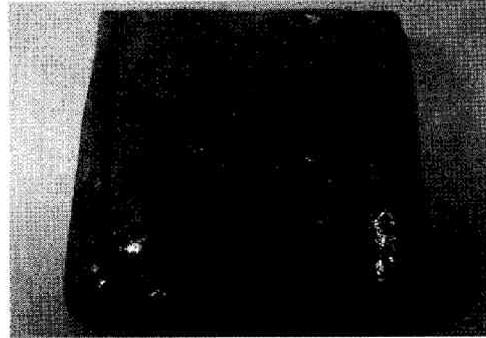
素描 1



素描 2



作品 1



作品 2

2 作品分析

上の2作品は、ともに意欲的に取り組んだ生徒の作品である。素描1と作品1は、輪郭線の強弱によってピーマンの立体感を表し、素描2と作品2は、陰影によって立体感を表したものである。

これらの作品から、陰影に視点をあてた生徒は、レリーフにおいて量感を出すことを工夫し、輪郭線に視点をあてた生徒は、エッジの表現に工夫する傾向が見られた。それぞれの個性にあった描写力の習得が、立体制作においても表現の工夫として生かされていることが分かる。

立体的に見せるのが、とてもムズカ
しかった。遠くあるモノと近くにあるモノの
大きさを 変えるのがうまくいかなかった。

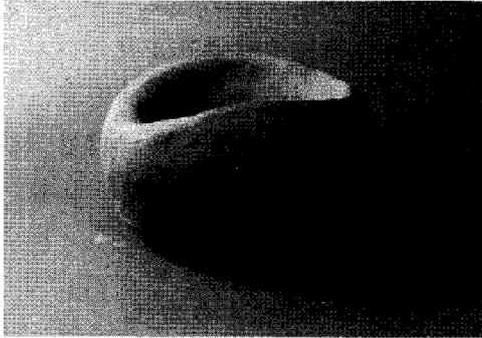
《生徒の感想から》

粘土に絵を下書きして、その上に粘土をつけていく
所が とても難しかったけど、最後には、ちゃんと完成
したのでよかった。

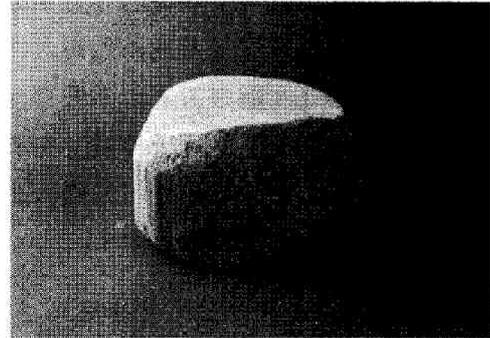
触覚を生かした器づくり

1 題材設定の理由

バルサブロックを材料として用いて、器を制作した。デザインの段階で粘土を使って形態を検討させることで、立体感を実感しながらアイデアを練り、自分の表現したい形に近付くように工夫することをねらいとした。



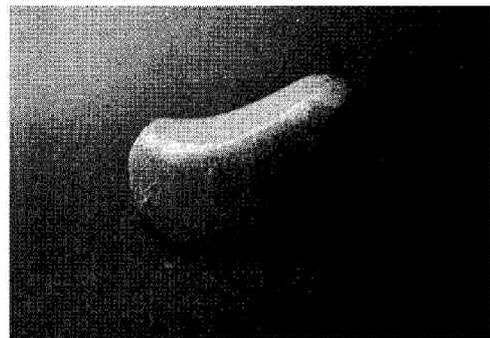
デザイン 1



作品 1



デザイン 2



作品 2

2 作品分析

上の作品は、粘土によってアイデア・デザインをし、制作に取りかかったものである。平面から立体にするときと違って、よりイメージに忠実に表現しようとする生徒の工夫が見られる。

《生徒の感想から》

絵を書くのと、ねんどでつくるのは全然ちがうよ
と思いきいでもねんどでやったら入れものの形
がよ〜分かったの〜よかった〜

ねんどに〜と、いろいろ形ができて、絵より
も、便利に〜と思った。丸いものをつくる時も
絵よりよ〜つくれるからやりやすかった。

「折り鶴」を描く (着彩技法の理解と整理)

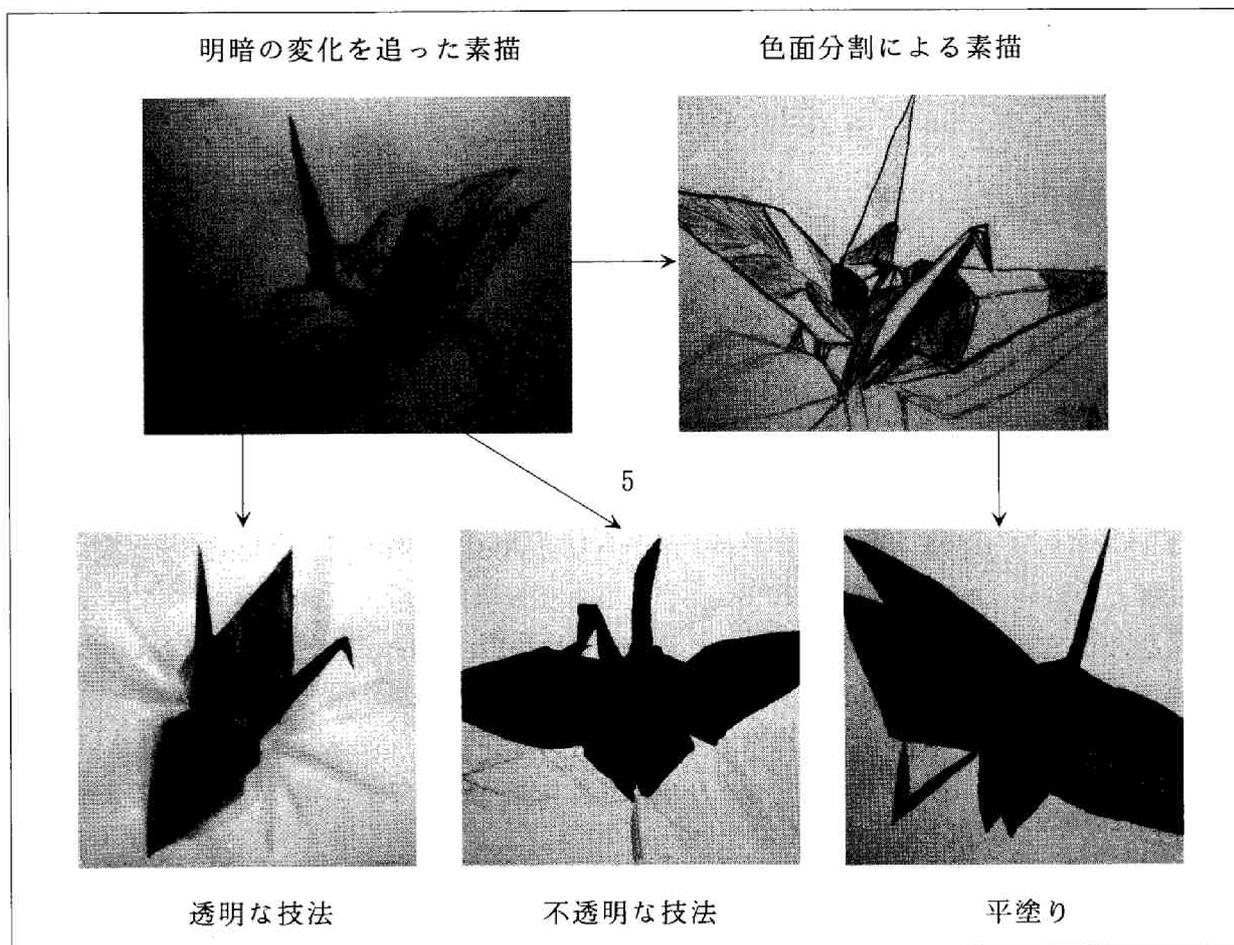
1 題材設定の理由

素描を通して基本的な表現の技法の手がかりを見つけた生徒たちが、絵画・デザイン等の平面表現の領域で次に直面する問題は「着彩」である。

水彩絵の具を用いた着彩の方法として、以下の3つの技法が主に使われる。

- ① 透明な技法（下地の色を生かした重ね塗り）……………絵画的表現
- ② 不透明な技法（下地の色をつぶす重ね塗り）……………絵画的表現
- ③ 平塗り（色面分割による塗り分け）……………デザインの表現

今回は同一のモチーフ「折り鶴」を異なる3つの技法で着彩することにより、それぞれの着彩技法に適した、下描き（素描）から始まる作業行程を体系的に理解し、使い分けできるようにすることを目的とする。



2 作品の分析

「明暗の変化」を学習することによって、何気なく見ていたものが、光や置かれた状況によって様々に変わっていくのが分かってくる。そして、絵の具の使い方を工夫できるようになり、表現の幅が広がってくる。絵の具を使うことが苦手だった生徒も、工夫したらできることを体験を通して理解できる。一人一人の生徒が、新たな意欲を持って活動できる題材である。

2 発想を豊かにする環境・雰囲気づくりに視点をおいて

(1) ねらい

創造性を発揮し、意欲的に作品制作に取り組むためには、発想の段階でのきっかけをつかませる指導の工夫が大切である。また、納得しない案のまま制作に入り、途中で興味・関心を失わせない授業の工夫も必要である。

美術の学習では、制作過程のそれぞれの段階での環境・雰囲気づくりが、制作への意欲を左右することが多い。仲間と相談したり、教師との言葉のやり取りのなかで、思わぬ案や新しい工夫を考え出す。また、教室に展示された作品から発想することもある。このように、生徒を包む環境や雰囲気づくりに重点を置いた指導と評価の工夫が、生徒の発想を豊かにし創造性を伸長すると考え、研究のねらいとした。

(2) 環境と雰囲気づくりの視点

① 人的な環境について

ア 友人とコミュニケーションを取りやすくする。(机を付けて作業する)

効 果	<ul style="list-style-type: none">・生徒が、楽しい雰囲気の中で制作できる。・友人からの援助により、発想が浮かび、新しい工夫ができる。・友人と協力し合うことによって、自信をつけたり、充実感を味わえる。
--------	--

問 題 点	<ul style="list-style-type: none">・作品制作に関係ない私語等が多くなりやすい。・教師の指示や指導が徹底しにくい場合もある。・友人に頼りがちになる。
-------------	--

イ 一人で考え工夫ができる落ち着いた雰囲気をつくる。(机を離して作業する)

効 果	<ul style="list-style-type: none">・教師の指示が徹底する。・意欲の欠けている生徒、制作につまづいている生徒等が、よく分かり、教師が援助しやすい。・じっくりと考え、自分のイメージをふくらませることができる。・友人に頼ることなく、一人で考え、工夫することができる。
--------	--

問 題 点	<ul style="list-style-type: none">・相互啓発する機会がない。・制作速度に較差が出やすい。
-------------	--

机をどのようにセッティングするかによって、一人一人の生徒に対する人的環境は、大きく異なり、授業中の雰囲気も変わってくる。机のセッティングは、生徒の制作意欲に大きくかかわる問題として認識し、題材や授業の流れにそって工夫する必要がある。

机を付けたり離したりした場合のそれぞれに効果と問題点はあるが、教師が適切な働きかけをして、意欲的に取り組める環境づくりを図ることが大切である。

ウ 生徒への援助活動を工夫する。

(ア) ワークシートや自己評価カードの活用

授業における生徒とのコミュニケーションを補うため、授業後にこれらの資料から、一人一人の変容を読み取り、次の授業時に、より適切な助言ができるように活用する。

(イ) 作品のできばえだけにこだわらない、伸び伸びと制作できる雰囲気づくり

- ・生徒がお互いに良いところを認め合うように働きかける。
- ・発想、取り組む姿勢、作品の仕上がりなどで、生徒のよいところを発見し、積極的にほめ、支援する。
- ・作品を教師も生徒も大切にすること。(展示の工夫、観る態度の育成など)

ワークシート **ポエミーアート 春のささやき**

詩から受けたイメージを表して見よう 年 組 番 氏名

項目		友達1	友達2
言葉	ほらほらしている野原の上で、小さなたまごから 小さな力が飛び出して、水たまりの隅をさがす	まはしい 日ざし	魚っぽ
におい	若草と菜の花がまどろ、やさしい香り	草	花
質感 (さわった感じ)	つかめそうでつかめない アツアツのマシュマロがおい	わねのふ クワイ	あかすか イタツク
音	パリッ... ピーピーピー	ピカピカ	パキパキ ピロピロ
味	あまーいイチゴのアメ	砂糖	ミルク イチゴ
温度	温かいのと少し寒い風がちやうど ぴったり	あつあつ あつあつ	あつあつ あつあつ
色	色鉛筆で塗ってみよう		
具象 (描いてもいいし、切り抜きを貼ってもいいよ)			
抽象 (三角・四角・線 いろいろな形で描いてみよう)			

「春」をイメージする詩(どうしても探せなかったら歌詞でもいい)をさがそう

「春」で連想するもの...

後生・イチゴ・歌・風・出会い・しあわせ
笑顔・生クリーム・友達・ラズベリー・シロクッキー
バラ・パティのアイスクリーム

自分の一番気に入った詩
たまご 作者 こやま峰子

詩を書きましょう (特に好きな部分に赤でアンダーラインを引きましょう)

うたがこぼれる
まどがひらく
ある日、ちいさなくちばしで
いのちのつぼみ
たまご

先生のからのメッセージ&アドバイス
春を感じさせるとてもかわいらしい詩
ですね。ワークシートでイメージした
春の「におい」や「味」や「温度」も
絵であらわせるといいね。がんばれ!



自己評価カード		〇〇区立〇〇中学校美術科		
		1年組番	氏名	
テーマ	詩のイメージを絵で表す(季節感のある詩)			
選んだ詩の題名		作者名		
時間	製作の段階	自己評価項目	今日の取り組みについて	授業で工夫したり、発見したり気がついたこと
2	詩をさがしに出かけよう	・好きな詩を選ぶことができたか ・自己表現カードは丁寧に記入できたか ・具象的な形のイメージはもてたか ・抽象的な形のイメージが浮かんだか	A B C A B C A B C A B C	
1	アイデアスケッチ	・イメージをふくらませることができたか ・何枚のアイデアスケッチが描けたか ・異なった種類のアイデアスケッチが描けたか ・最初に描いた物を発展させたスケッチが描けたか	A B C 多く、2~3枚 1枚 A B C A B C	
1	構想図	・アイデアスケッチを発展させた構想図が描けたか ・詩のイメージ通りの構想図ができたか ・授業の時間で完成できそうな構想図か ・一生懸命取り組める構想図になったか	A B C A B C A B C A B C	
2	コンピュータを使ってみよう	・友達のスケッチと見比べて自分しか思いつかないアイデアはあるか ・ペンツールはいろいろ使ってみたか ・ペイントツールはいろいろ使ってみたか ・編集ツールはいろいろ使ってみたか ・ファイル操作はできたか	A B C A B C A B C A B C A B C	
8	詩をCGで表してみよう	・楽しくコンピュータで絵が描けたか ・構想図を生かした配色ができたか ・色や形は調和させられたか ・CGで詩のイメージがうまく表現できたか	A B C A B C A B C A B C	
2	文字を入力してみよう	・文字入力は思い通りにできたか ・絵とのバランスはとれているか	A B C A B C	
1	鑑賞 自分の作品を総合評価しよう	・本題材について熱心に取り組めたか ・作品の出来上がりは自分の満足できる物であったか	A B C A B C	
	クラス鑑賞会	自分の作品の最も優れている部分 自分の作品のうまくできなかった部分 ・詩のイメージを最もよくCGで表現している作品の作者は ・コンピュータで様々な技法を駆使した作品の作者は 自分の作品と比較して似ている作品は 優秀賞として推薦する作品の作者は		

*今日の取り組みについて … A(良くやった) B(まあまあできた) C(できなかった)

② 物的環境について

ア 視覚的環境

- ・教室内の掲示物
- ・校内・教室内の展示
- ・図鑑、写真
- ・ビデオ・OHP等の利用

イ 聴覚的環境

- ・CD、テープ等の利用(雰囲気づくりとしてのバックミュージックを発想を豊かにさせるためのきっかけとして活用)

様々な物的環境を整えることによって、生徒が発想を豊かにするきっかけを与えることができる。

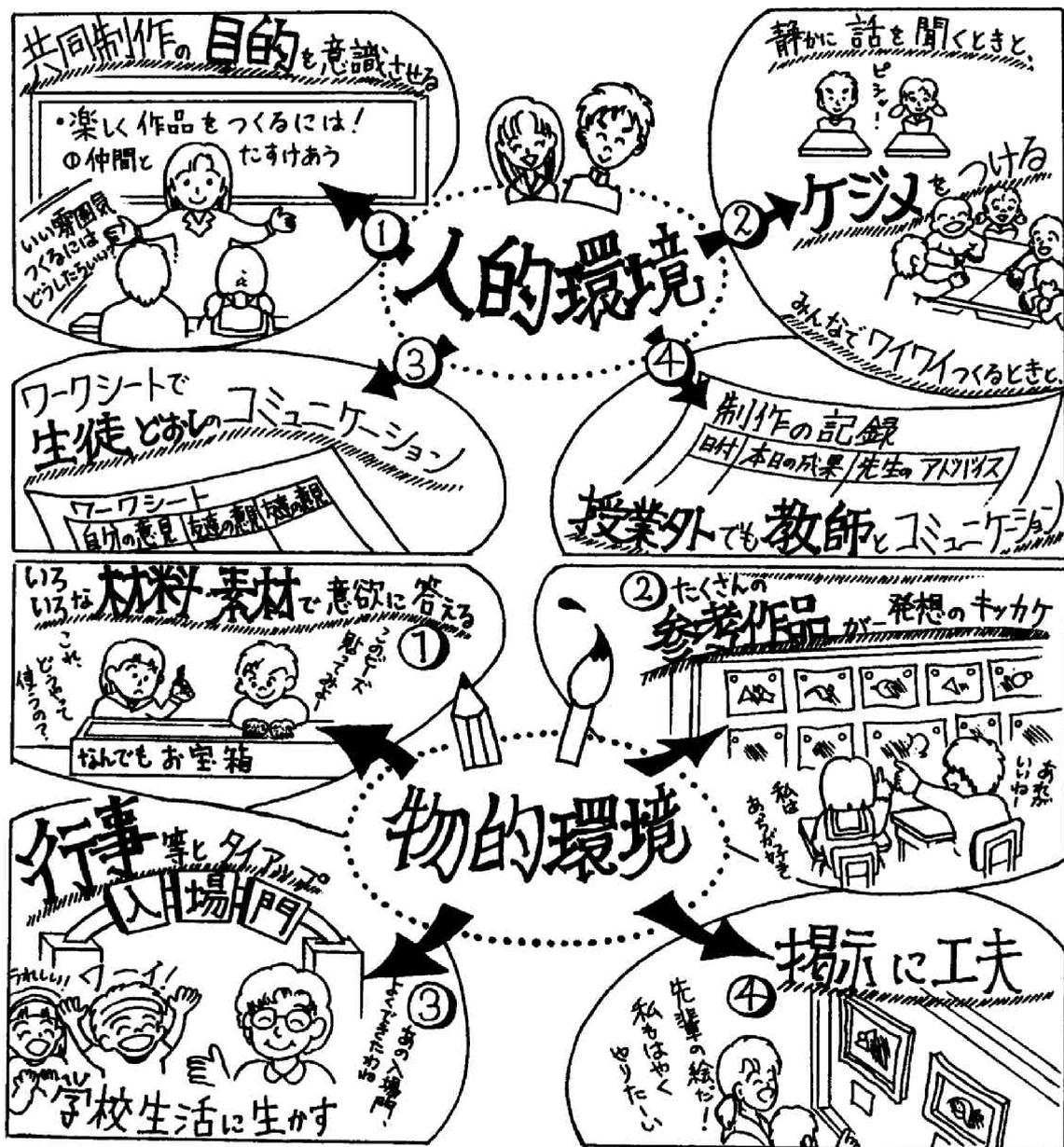
雰囲気イキいき共同制作 ～みんなで一つのものをつくる～

1 題材設定の理由

共同制作では、生徒一人一人が意欲的に取り組むための雰囲気・環境づくりが大切である。生き生きとした雰囲気の中での制作は、発想のきっかけをもてないでいる生徒に、楽しく、積極的に制作に取り組もうとする意欲を与える。また、みんなでやり遂げる感動を体験できる。仲間と一つのものをつくることによって、創作活動への興味・関心を引き出せると考えた。

2 共同制作における指導上の留意点

- ① ワークシートを活用し、イメージをふくらませる。
- ② 制作記録カードを利用し、個人個人の役割を理解させ、やりがいを感じさせる。
- ③ 自己評価カードを活用し、制作過程においての目的を踏まえさせる。



3 共同作品例



作品1 運動会入場門・退場門

選択授業での取り組み。技術科の教員と協力して、構造的に頑強な物になった。話合いの結果、イルカがジャンプをしている図案になった。保護者からも高い評価を受け、運動会の名物の一つとなり、学校行事の中で生かされている。



作品2 原爆ドームときのご雲

文化祭での取り組み。原爆ドームを発泡スチロールで造る班、きのご雲をふとん綿で造る班、広島町のジオラマを造る班、ベニア板9枚背景画を描く班、原爆について調べる班に別れて制作した。制作にはかなりの時間を費やしたが、満足できる作品になり、新聞でも紹介され喜んだ。共同での創作活動に一人一人のよさを生かした活動になった。

ポエミーアート ～詩のイメージを絵で表す～

1 題材設定の理由

創造力をはぐくむためには、意欲的に制作しようとする雰囲気をつくる必要がある。そのためには、生徒の意欲を盛り上げる教師の適切な助言や働きかけが大切となる。

この題材では「詩のイメージを絵で表す」なかで、イメージを広げるための方法を生徒が工夫し、教師も具体的な働きかけをするよう工夫した。それにより、生徒は意欲的に取り組み、発想の幅を広げ、創造力をはぐくむことができると考えた。

2 指導のねらい

- (1) 「自己表現カード」(ワークシート)を活用し、教師の適切な助言・働きかけにより詩のイメージを広げ発想を豊かにする。
- (2) 「自己評価カード」を活用し、制作過程において生徒と教師のコミュニケーションを深め、意欲を引き出す。
- (3) 作品鑑賞の仕方、教室掲示等を工夫し、次の作品に対する意欲を高める。
- (4) イメージをふくらますために、写真や図鑑等の資料をできるだけたくさん準備する。

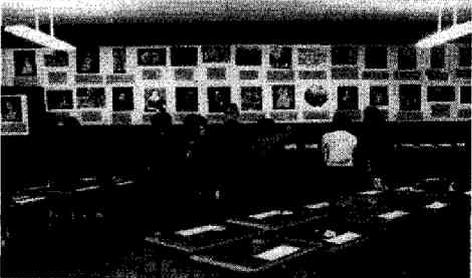
3 内容

自分の好きな「四季を表した詩」を選び、その詩からの湧いてくるイメージを絵で表現し、詩と絵で構成する。

4 学習計画

(◇自己評価 ◆指導のポイント)

順	指導の流れ	生徒の活動・自己評価	教師の働きかけ	時
1	詩を選ぶ	1.春・夏・秋・冬を表している詩を図書館で探す。(家から持ってきてもよい。) ◇好きな詩を選ぶことができたか。	◆イメージが広がりやすい詩を探させる。 ・適当な詩が見つからない時は幾つか教師が用意する。	1
2	イメージをふくらませる	1.詩を読んで「自己表現カード」へ記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想を文章で書く ・におい、味、温度、質感 ・色 ・具象的な形のイメージ(色鉛筆で) ・抽象的な形のイメージ ・友達の発表を聞いて思ったこと 2.グループで書いた内容を見せ合い意見交換する。 ◇イメージを膨らますことができたか。 ◇友達の感じたことと違いはなかったか。	・感想は詩の解釈ではなく一番強く感じたことは何かを中心に書かせる。 ・色は一色でなくてもよい。 ◆一人一人何を描いているか見て回り、描けない生徒に助言する。 ・複数の生徒のカードを交換させる。 ・意見、感想を友達のカードに書かせる。 ◆それぞれの違いを理解させ、自分の感じたイメージを再度確認させる。 制作への意欲を盛り上げる。	1

3	制作	<p>1. アイディアスケッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己表現カード」を元にイメージを形にする。(色鉛筆) ・文字と絵の構成、バランスを考える。 <p>2. 下描き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆で画用紙に下描きをする。 <p>3. 彩色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現方法は下記の中から選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・水彩画 (文字は俳画風にするか、明朝体で描いてもよい。) ・きり絵 ・パステル ・モザイク ・半立体 ・コンピュータで作る。 ・共同制作 <p>◇自分のイメージ通りのものができたか。 ◇文字と絵はバランスよく構成できたか。 ◇思い通りに彩色できたか。</p>	<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物、動物、行事等の図鑑や写真をできるだけ多く生徒に用意させる。教師も用意する。 ◆詩の中に出てくる具体的な物にとらわれすぎないように注意する。 ◆独創的なアイディアは皆に見せる。 ・自分にあった表現方法を選択させる。 ◆一人ひとりを見て回り良いところを褒め励ます。 ◆良い作品は途中段階でどんどん皆に見せる。  <p>作品例</p>
4	鑑賞	<p>1. クラス鑑賞会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の作品を掲示し、感想を述べ合う。 <p>◇自分の作品を総合評価する。 ◇同じグループの人の作品を評価し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内展示会の準備をおこなう。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の許す範囲で、できるだけ多くの生徒が発表できるようにする。 ◆作品の批判だけにならないように、お互いの良いところを認め合う指導にする。
5	校内掲示	<p>1. 校内展示会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で一番皆が見られる所に作品を展示する。 ・次回への意欲を盛り上げるため、生徒自身による「優秀賞」を投票で決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による「努力賞」等を発表する。 (皆、頑張っている時は賞はださない。)
			
校内展示風景		作品例	

コンピュータで表す詩の世界

1 ねらい

コンピュータを使った学習では、子どもたちが制作過程において、思いがけない発見や工夫によって、自分のイメージを容易にふくらませることができる。指導や評価も子どもたちの学習活動を積極的にバックアップするものでなければならない。そこで、学習過程のそれぞれの段階において、自己評価カード、ワークシート、アイデアスケッチ、構想図などをまとめ、個人ファイルとして活用した。また、個人を継続的に観察することで、生徒の活動をよりの確にとらえようとした。その中で発見されたつまづきに対応した指導を行なうことで、意欲と成就感を引き出せると考えた。

2 作品の分析

パステル

詩から受けた色彩的なイメージが大変気に入って、熱心に制作していた。画面構成や色彩等は最初から作者が持っていた着想であったが、コンピュータは初めて操作することもあって技術的に思うに任せない場面がみられた。しかし最終的には、構想図に縛られずに、自らのイメージにより近い画像をコンピュータ画面の中に表現することができたようだ。

夏をテーマにした詩を表す

「夏の川」、「この夏は」。2点とも子どもたちが理解しやすく共感できる詩の世界を、自分自身の夏のイメージと重ね合わせて表現した作品。子どもらしい発想で楽しく表現されている。

画像を取り込んだ作例「芽」

この詩から生徒が感じ取ったイメージは、森の中のような深みのある空間と、ふんわりとして風船のように軽く暖かみを感じさせるものであった。アイデアスケッチの段階では抽象的な表現を模索していたが、自分の持つイメージを良く現している画像を見つけたことで、この画像を取り込み作品化したものである。これは、イメージを象徴する画像を探し、選択し、編集しながら詩の世界のイメージを具現化したものである。

しゃぼんだま

「しゃぼんだま」という詩からのイメージによる作品。作者は都会の雑踏の中に飛び出そうとするしゃぼんだまと、自分自身の姿を重ね合わせてイメージしていた。構想図では縦長の画面であったが、コンピュータの制作に入ってから、大幅に変更を加えた。当初の説明的な構成を整理し、より直感的なイメージによる構成に発展させることができた。

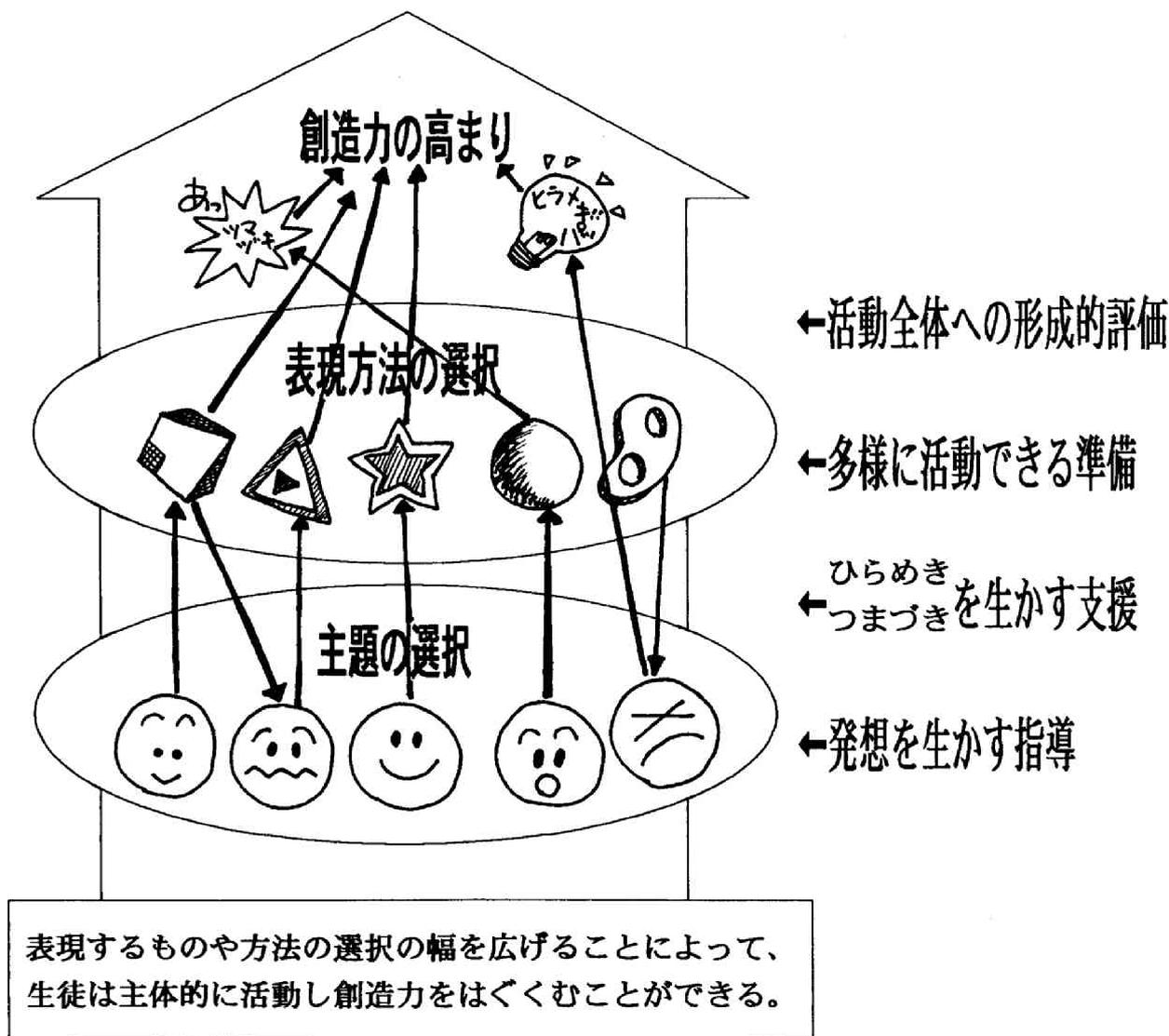
3 選択幅の拡大を視点として

(1) ねらい

基本となる表現方法を踏まえた上で、選択幅の拡大を視点として、独創的な創造力をはぐくむことをねらいとした。そのためには、生徒一人一人が自らの意思で主題を選べること、自分が表現したい内容にあった素材や表現方法を選ぶことが大切であると考え、主体的に選択できる幅の広い題材を設定し、指導と評価の工夫を図ることとした。

指導の留意点として、生徒の活動を的確にとらえた支援・助言をすること、活動中のひらめきを生かし、つまづきを工夫・改善するように配慮した。評価においては、生徒が選択した主題や表現方法を認め、励ます姿勢を重視した。特に、生徒が自らの意志と意欲によって、よりよいものや真に美しいものを自分なりに創り出そうとする活動となるように、評価の在り方や方法を工夫した。

(2) 構造図



生徒のワークシートが

① 表わしたいこと・見る人に伝えたいことは？
 ※例えば「大仏の迫力!」「阿修羅像の表情の不思議さ」「班行動場所の楽しさ」など、心に感じたことを。

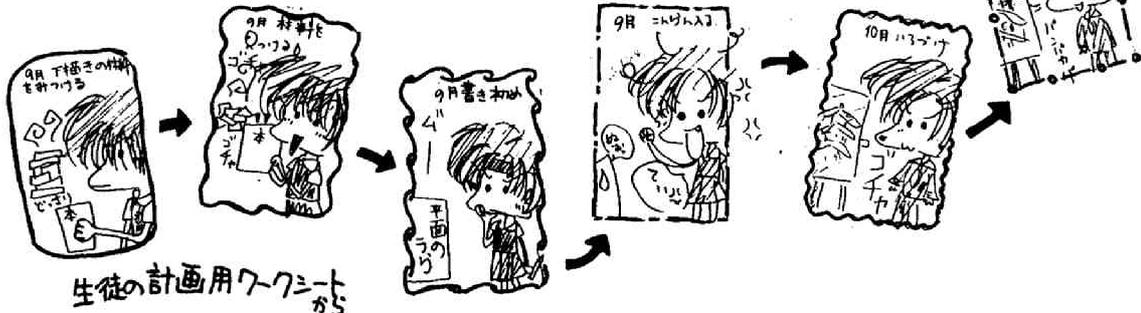
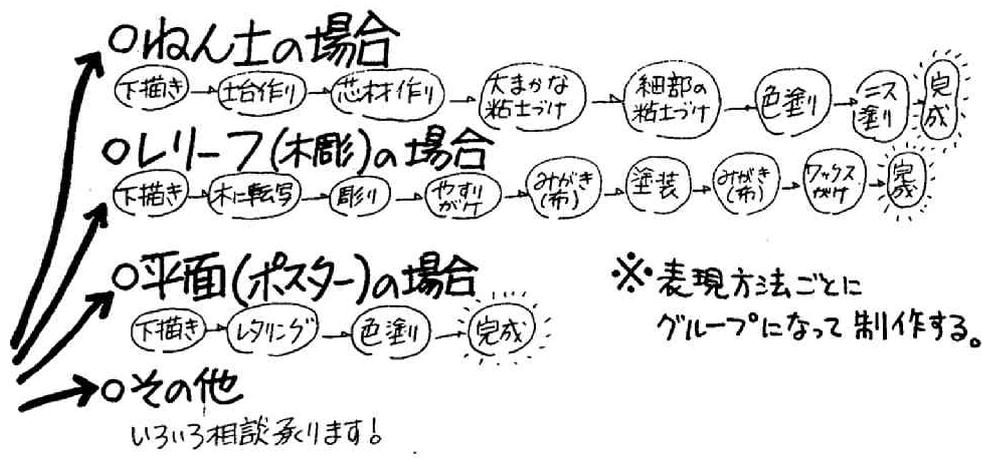
千手観音のおくゆかしさ。

② それを表わすには、どの表現方法が最適?
 立体(ねんど)、レリーフ(木彫)、平面(ポスター、絵)など

ねんど

アイデアスケッチ 気を感じてジャンジャン描くもの。

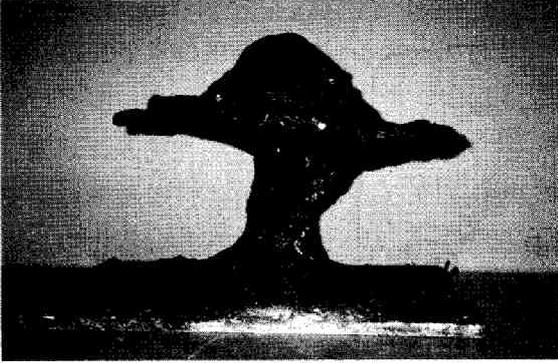
※お互いの作品についても鑑賞し合い、様々な表現のよさを味わおう。



《まとめ》

4 作品の分析・考察

作品1 (立体)「時代が生んだ魔物」



広島に落とされた原爆のキノコ雲を立体で表現している。

形全体の動勢、色彩、火であぶった焼け焦げなどで、原爆の威力のすさまじさと悲惨さを意図的に表現した。作者は、「ヒロシマの苦しきを見る人にすこしでも伝えたい」と制作中、数多くの試行錯誤を繰り返した。苦勞が感じられる作品である。

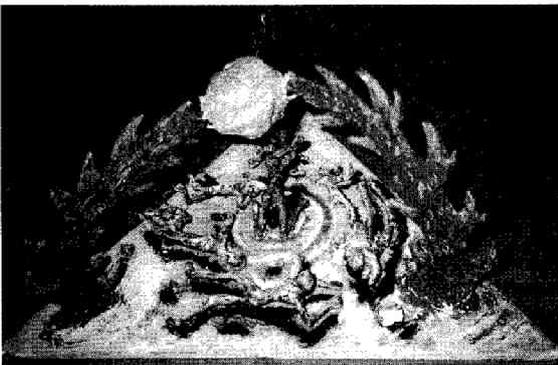
作品2 (立体)「餓鬼」



京都のお寺で見た襖絵の「餓鬼」を立体で表現している。

顔の表情、指一本一本の細部までにこだわり、「餓鬼」の鬼気迫る感じが良く表現されている。平面の絵を立体で表現することで形態の面白さを感じられ、色彩も自分なりに考えて、描き込んでいた。創造的意欲に溢れている。

作品3 (立体)「戦争の惨禍」



広島の前爆投下直後のようすをいろいろな学習をもとに自分なりに想像して、立体で表現した。

やや抽象化した炎と焼かれていくリアルな人間の姿を対比させ劇的場面を作り出している。

作者のもつ高い創造的技能に支えられて、自由な発想と原爆への思いを集中した忍耐強い作業で形象化しきった。

立体作品を選んだ生徒の多くは、修学旅行で観たこと感じたことを平面で表すより、立体で表すほうが、より自分の気持ちを素直にできると考えて取り組んだ。作品2「餓鬼」のように、新しい表現に挑戦しようとする意欲的な態度を、表現方法を選択させることで、育成できたと考えられる。

作品4 (レリーフ)「金剛力士」



奈良・東大寺の金剛力士像を木彫レリーフで表現している。筋肉の量感や力強い動きを深い彫りでダイナミックに表現している。

彫り始めは、細部にこだわり過ぎる傾向にあったが、制作が進むにつれて、全体の動勢を大胆に表現するよう変化していった。

作品5 (平面)「鹿」



奈良公園の鹿を写実的に、明るい色彩で情感たっぷりに表現している。

修学旅行の時、自分で写した写真や動物図鑑を参考に構想の段階からていねいに作業を進めていた。この鹿は親子であろうか、作者のやさしさが自然と伝わってくる素直な作品。

作品6 (平面)「死の街」



広島原爆ドーム、キノコ雲、人影の階段、そして「死の街」という文字を組み合わせることで広島惨状を象徴的に表現できた。彩色の作業では、自分の思った色が出ないと何回もやり直していた。

作者の伝えたいことがはっきりと伝わってくるテーマ性の強い作品である。

生徒の選択の幅を広げたことで、一人一人が自分らしい表現を試みる題材となった。また、活動の過程で、表現方法や材料がそれぞれ異なるため、自分の作品をアピールしたり、友人の作品に率直な意見を言ったりできた。お互いの評価が、制作への新しい工夫を生み出す学習になったと考えられる。

好きな曲をコラージュで表現しよう

1. 題材設定の理由

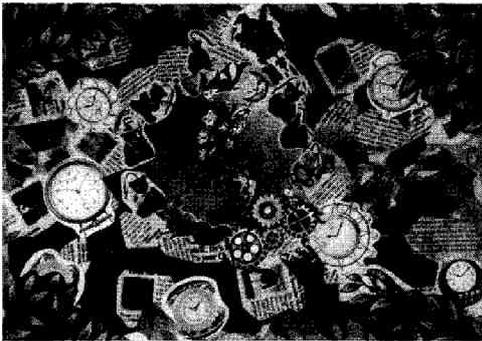
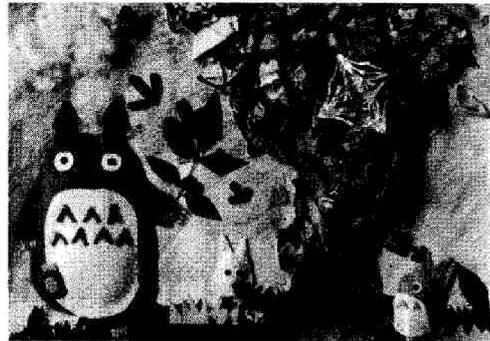
生徒が意欲的に取り組めるようにするため、次の2つの点を考慮し、選択の幅を拡大し、創造的な表現活動へと発展できるよう考えた。

- 好きな曲を自分で選ぶことで生徒に主体的に取り組ませる。
- 絵が苦手な生徒もコラージュで表現することにより、取り組み易く、また、写實的・抽象的・立体的などいろいろな表現が工夫できるようにした。

2. 作品分析

《作品1》となりのトトロの散歩

表現力が豊かでトトロのテーマの歌詞「歩こう歩こう私は元気」という場面を3匹のトトロと足跡で具体的に表現している。紙やフェルトは膨らませ木の部分では写實的に表現している。



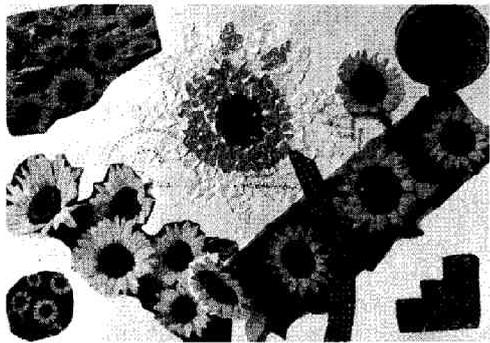
《作品2》1/2 (川村真琴)

「半径3メートル以内の世界」という歌詞から自分なりの世界を表現した。共通語である英語と“時間の流れ”を表す時計をたくさん貼り、空間と広がり表現した。

《作品3》そだよ (ドリーム カム トゥルー)

「夏に咲く黄色い花はどこまでも天を指している・・・美しかった」という歌詞から黄色い花ーヒマワリを重ねることにより空間を意識した。

素直な作品に仕上がった。



《作品4》 渚にまつわるエトセトラ (パフィー)

「あのペリカン寂しそう」という歌詞から夕陽が沈む波間に浮かぶペリカンと立体的に作った魚を張り付けて叙情的に表現した。紙を貼るだけで波を表現し、コラージュの手軽さを利用している。

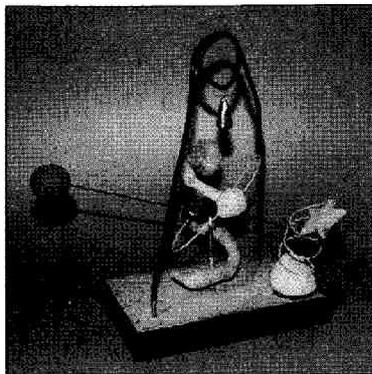
思いのままにマイ・オブジェ

1 題材設定の理由

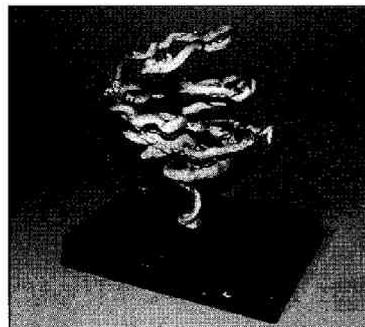
生徒一人一人が自分の発想や表現方法を生かして制作できる立体作品の題材として設定した。主に下の3つの点から選択の幅を拡大した。

- 自分の作りたいテーマを選ぶ。
- 針金芯材を土台に、粘土を主に使いながらも他の材料も積極的に取り入れる。
- 多種、多様な描画材による着色ができる。

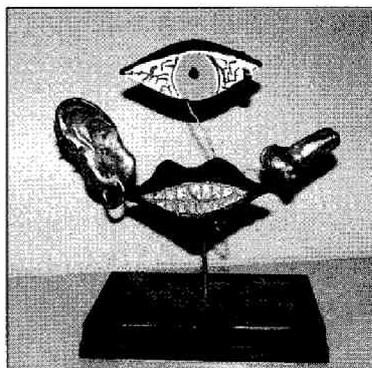
2 作品の分析・考察



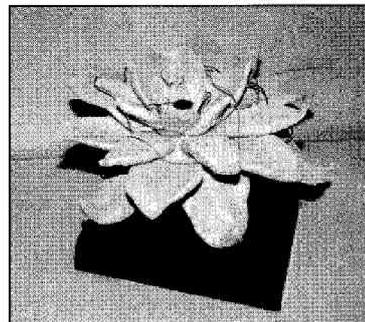
作品1
「ギャラクシーメロディー」
芯材と針金を使って、抽象的な立体の空間を表現している。原子や分子のイメージをもっていたが、最後は宇宙の音楽という題名を付けた。



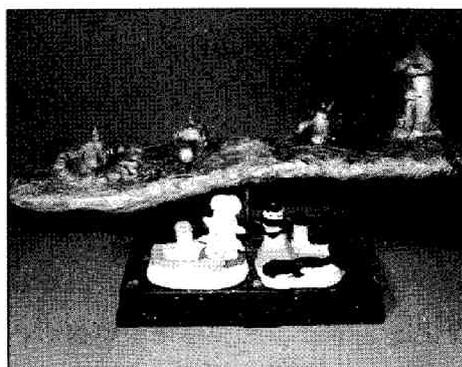
作品2
「ジャックと豆の木」
ジャックと豆の木という童話のイメージから発想し、竜巻のように舞い上がる動きのある表現に工夫が見られる。



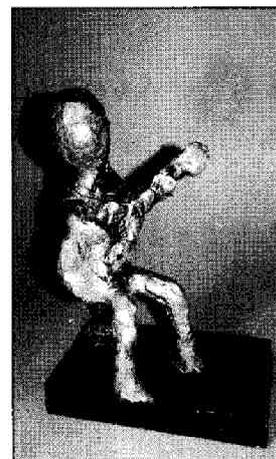
作品3
「そんなに見つめないで！」
目、鼻、耳、口を象徴化して空間に浮かすように表現した。具象的なイメージとシュールな雰囲気が生かされている。構材を使い分け工夫している。



作品4
「花」
花のイメージでボリューム感のある表現をしている。黄色い花を明るく素直にとらえた作品である。台面にも粘土で模様を彫らしている。



作品5
「未来戦国時代」
針金芯材で作った上空の場面と台面上を、未来の世界と戦国時代に表現した。ジオラマ的な作品で、一つの建物や乗り物をしっかりと作りこんでいる。



作品6
「ギターを弾く男」
ギターや歌に興味のある生徒である。早くからイメージをもって意欲的に制作していった。丁寧に作業することがあまり得意ではないが、スプレーによる塗装、台の塗装、針金のネックレスなど工夫して作り上げた。

V 研究のまとめ

1 3つの視点からの考察

(1) 基礎・基本

ものの見方、表現の基本技能の習得を重視した学習展開の工夫に努めた。表現技能の習熟により自分の表現に自信を持ち、意欲的に作品制作に取り組む気持や姿勢を身に付けることができた。また、ものの見方を深めさせることが、新しい気づきを生み、表現活動への興味・関心を高めることが分かった。

(2) 環境・雰囲気づくり

生徒の創造力をはぐくむためには、意欲的に制作しようとする雰囲気を作ることが大切である。自己表現カードや自己評価カードを工夫して取り入れることは、発想の段階のつまづきへの効果的な働きかけとなった。また、生徒の活動が停滞している時、教師が適切な助言・支援をし、積極的にほめることによって生徒の意欲を喚起することができた。

そして、作品を美しく展示するなどして、自他のよさを発見し合うことが、お互いの意欲を高める上で効果的であると分かった。

(3) 選択幅の拡大

表現活動に当たって、様々な素材を活用し、表現方法の選択幅を拡大させることで、意欲的な態度でのびのびと制作ができた。また、自分のテーマを明確にして、表現活動に取り組むことによって、独創的な表現活動へと発展できた。評価においても、作品評価のみに偏らず、制作過程を重視することによって生徒の意欲を引き出すことができた。

2 研究全体の考察

(1) 指導の工夫

中学校の美術では、ものの見方や基礎・基本となる表現技法を十分に体験させたり、学習環境を整えたりすることによって意欲を高めることができる。その上で、選択能力を身に付け、独創的な創造活動を目指すよう指導の工夫を図ることが重要である。

(2) 評価の工夫

生徒一人一人の発想や表現を認め、励ます姿勢が大切である。完成作品の評価に偏らず発想段階、計画性、制作途中での工夫・改善、活動への意欲などを評価の観点として取り入れることが有効である。完成後の作品を飾り、自己と他者のよさを発見し合うような評価の在り方も工夫できる。

3 今後の課題

中学校美術において、生徒の創造力をはぐくむための指導と評価の工夫を探ってきた。生徒の表現意欲を高めるには、美術における基礎・基本を吟味するとともに、学習環境を整備するなどの授業展開の工夫が大切である。その際、生徒のこれまでの経験を踏まえるために、小学校との連携が必要と考える。題材の系統性、発達段階ごとに身に付ける基礎・基本の明確化、教育条件の整備等、様々な問題に対し研究を深め、今後の実践に生かすことが課題である。